

自 2023年4月 1日  
至 2024年3月31日

## 2023 年度 事業計画書

公益財団法人ハーモニィセンター

# 目次

はじめに.....	1
1. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の運営.....	2
1-1 ポニーキャンプ®・野外体験キャンプ・HAC	
1-2 カウンセラーの募集とトレーニング	
1-3 移動動物教室	
1-4 蓼科ポニー牧場	
1-5 小貝川ポニー牧場(小貝川三次元プロジェクト)	
1-6 相馬ポニー牧場	
1-7 新拠点整備に向けた取り組み	
2. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の受託管理.....	4
2-1 碑文谷公園こども動物広場(指定管理・指定期間5年の5年目)	
2-2 水元スポーツセンター公園子供動物広場(受託・1年契約)	
2-3 相模原麻溝公園ふれあい動物広場(指定管理・指定期間5年の5年目)	
2-4 板橋こども動物園(指定管理・指定期間5年の4年目)	
2-5 上千葉砂原公園ふれあい動物広場(1年間の特命随契)	
3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及.....	7
4. 川べり環境の整備及び活用.....	7
5. 国際文化交流、国際相互交流活動の推進.....	7
6. 社会教育に関する調査研究の推進及び研究成果の普及.....	8
7. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信.....	8
7-1 機関紙「THE HARMONY CENTER」	
7-2 WEB サイト・SNS の運用	
7-3 パンフレット・チラシの活用	
8. 各種セミナー等.....	8
9. 法人運営にかかる業務.....	9
9-1 職員等の研修	
9-2 会議等の実施	
9-3 運営体制強化に向けた取り組み	
9-4 他団体との連携等	
9-5 日常法人事務	

## はじめに

新型コロナウイルス感染症はこの3年間にわたり、ハーモニセンターの活動にも大きな影響を与えてきました。依然として感染が収束したわけではありませんが、社会活動を以前の形に戻していこうという大きなうねりがあり、この年度のハーモニセンターの事業もそれに呼応した形で進むこととなります。中止を余儀なくされてきたイベントが再開し、人数制限がより緩和され利用者・参加者が増えることで、かつてのにぎわいが戻ってくることでしょう。

キャンプは蓼科ポニー牧場でのポニーキャンプ<sup>®</sup>のほか、ファミリーキャンプ、登山、スキーなど多様なキャンプを行います。十分な感染症対策をしながらも、より多くの子供達に参加の機会を提供できるよう努めます。

自治体より受託運営する動物広場でも、新型コロナウイルス感染症にかかる利用制限は緩和され、より多くの方に利用いただくことになるでしょう。また、中止や縮小を余儀なくされてきたイベントの再開も予定されています。これをきっかけに動物広場の存在を知り、新しい居場所として親しむ人たちが増えるであろうと期待しています。

中断していた国際事業もまだ全面再開とはいきませんが、夏にモンゴル乗馬ツアーを行うことを予定しています。海外でのキャンプなど、異なる文化に直接触れることは、子供達にとって大きなチャレンジと学びの機会となります。これまでに築いた関係を大切に、そして、新たな関係づくりを模索しながら、国際交流事業の継続・発展を図ります。

また、蓼科ポニー牧場のリニューアルにも着手します。まずは、バリアフリー対応の居室のある宿泊棟の建設から始めますが、これは一部に過ぎません。老朽化した施設の改修とともに、ハーモニセンターのフラッグシップ拠点として求められる新たな機能を加え、訪れる人にとって心地よい空間となるよう、数年をかけてリニューアルを行います。

これもまた複数年にまたがる取り組みとなりますが、不登校の子供、DV被害や貧困など困難に直面する子供、医療的ケア児・障害児やそのきょうだい児等を対象とした、スペシャル・ニーズ・プログラムへの取り組みも強化します。これらの事業については、特別な配慮が必要であり、費用面の支援も不可欠であるため、自治体や当該領域の専門性と経験のある他団体と協力して進めます。

この年度は、キャンプを中心とする自主事業と6つの動物広場の受託運営という、事業の大きな枠組みには変化がありません。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響が減少し、事業規模がさらに回復する中で、より安定した運営が求められるだけでなく、この間に明らかになった社会課題に対応する姿勢も必要となります。その取り組みにおいては、知恵やスキル、資金など、ハーモニセンター単体では十分持ち得ず、不足する資源もあります。取り組みをより実効性のあるものにするため、それぞれの領域に専門性を持つ団体や自治体、助成団体等との協働を積極的に進めることが必要となります。

次へとつながる静かな変化が着実に生じる1年です。これらの変化について共通した認識を持てるよう、早期に中期計画を策定し、一人ひとりが自律的に、それぞれの立場で法人運営に携わることができるようにしたいと考えています。

# 1. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の運営

## 1-1 ポニーキャンプ®・野外体験キャンプ・HAC

ハーモニセンターでは1972年から開始した十勝ポニーキャンプに始まり、約50年間にわたり、夏休み等の長期休みを中心に子供達(5歳～中学校3年生)を対象としたキャンプを実施している。スキー・登山・スケート・野外炊事等のキャンプ、家族で参加するファミリーキャンプを含め、下表のとおりキャンプを実施する。また、年齢制限を設けず気軽に参加してもらえるように HAC(ハーモニ・アクティブ・チャレンジ)も積極的に実施する。

この年度も新型コロナウイルス感染症の影響を完全に払拭することは難しいが、情勢にあった感染対策を取り、できる限り多くの参加者に体験を届けられるよう努める。

ポニーキャンプ	20コース GW(2)・夏(9)・冬(3)・春(3)・週末(3)
ファミリーキャンプ	7コース
野外体験キャンプ	9コース 登山(1)・野外(3)・スキー(3)・スケート(2)
HAC/日帰り	適宜

(代々木事業所担当分のみ)

また、これとは別に他団体との協力の下、子供にかかる社会課題に対応するスペシャル・ニーズ・キャンプにも取り組む。

## 1-2 カウンセラーの募集とトレーニング

カウンセラー(青年ボランティア)は、子供達と対等な目線で向き合い、寄り添う存在として、ハーモニセンターのキャンプをはじめとする活動に不可欠な存在である。新型コロナウイルス感染症の影響で活動には大きな制限が生じたが、徐々に活動頻度を高めることができている。回復期においては、単に以前の形に戻すのではなく、現在の状況に合わせた新たな活動機会を創出するとともに、主体的に活動できる環境づくりに努める。

カウンセラー募集	オンライン合同説明会の実施(5～6月に6回程度) 個別説明会は随時対応 ボランティア募集サイト activo(アクティボ)での募集 大学・専門学校での説明会の実施・SNS等を通じた告知
カウンセラー研修	蓼科宿泊研修(6月・11月・2月/計5回)・スキー研修(12月/1回) これ以外に、乗馬や野外スキルを身に付けるための日帰り研修を複数回実施するとともに、子供や自己についての理解などを学ぶ場も設ける。

## 1-3 移動動物教室

移動動物教室は、ポニー乗馬やモルモット・やぎ・羊・うさぎ等の小動物とのふれあいを学校・幼稚園・地域のイベント等に届ける事業である。新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきたこともあり、昨年度はコロナ禍前以上の依頼を受け、数多くの移動動物教室を実施した。対象も子供だけでなく、障害者・高齢者や地域の方々と広がりを見せている。この年度も引き続き、幅広く展開していく。さらに、「乗る」「触れる」だけでなく、ポニーや在来馬、小動物について学ぶことのできるプログラムの開発も進め、対面及びオンラインによる学校授業等への導入を図る。

(公社)全国乗馬倶楽部振興協会の助成を受けて実施する移動動物教室については、福島県南相馬市・長野県茅野市・神奈川県相模原市を中心に展開する。

また、前年度に実施したクラウドファンディングにご協力いただいた資金を活用し、障害者施設やフリースクールなど13か所程度の訪問を予定している。

#### 1-4 蓼科ポニー牧場

自主事業のポニーキャンプの他、年間を通して乗馬レッスン、障害者乗馬レッスン、引馬を実施するほか、地元の子供達を中心とする「蓼科ジュニアポニークラブ(TJPC)」、不登校児のための「ひだまりファーム」、ハーモニセンターの子供達のための乗馬大会「ポニーライダーズカップ」、地域還元事業「牧場フェスティバル」などを実施するほか、カウンセラーOB/OGや卒業生達の集う場所としてOB会を受け入れる。あわせて、法人で使用するポニーの育成、調教を行うほか、移動乗馬教室、スタッフ・カウンセラー研修等の活動拠点としての機能を果たす。さらに、牧場ようちえん「ぼっこ」へ活動場所を提供し、支援する。

また、複数年にわたるリニューアル計画を進める。まずこの年度は、助成金を活用した宿泊棟の建築に着手する。これをひとつのきっかけとし、蓼科ポニー牧場を「ポニーキャンプの場」「ポニーの供給基地」「実験的事業の場」として明確に位置づけ、総合的なリニューアルを進める。この過程においては、60年の歴史に根ざした多様なステークホルダーの意見を広く聞き、協力を得ながら、ハーモニセンターのフラッグシップとしての牧場づくりを目指す。

主な事業	ポニーキャンプ 20コース GW(2)・夏(9)・冬(3)・春(3)・週末(3) ファミリーキャンプ 7コース 蓼科ジュニアポニークラブ(TJPC) 2回/月(8月を除く) ひだまりファーム 毎週火曜日(年42回・長期休暇期間除く) ポニーライダーズカップ 10月14日(土)・15日(日) カウンセラー研修 5回 広場キャンプ(各動物広場利用者を対象としたキャンプ)
------	--

#### 1-5 小貝川ポニー牧場(小貝川三次元プロジェクト)

年間を通じて、乗馬レッスン、障害者乗馬、高齢者乗馬、引馬などを行うほか、川べりという地の利を活かして、カヤック教室などの水のプログラムをあわせて提供する。

2001年から使用してきた仮設厩舎の老朽化が進んでいる。助成金を利用した厩舎の建て替えを検討してきたが、キャンプを行うための環境の確保が難しいなど条件が整っておらず、引き続き対応策を検討する。

主な事業	ポニーふれあい 引馬、レッスン、外乗、障害者乗馬、高齢者乗馬 ポニー教室・ポニープログラム団体利用 ポニー研修 出張乗馬教室・ポニーステイ カヤック教室・川遊びプログラム キャンプ(日帰り) 河川敷管理
------	--

## 1-6 相馬ポニー牧場

2021年度末をもって除染土置き場としての貸出が終了したため、敷地の一部賃借を含め有効活用之道を探るとともに、その内容に合わせて老朽化した一部施設の解体も順次進める。

## 1-7 新拠点整備に向けた取り組み

ハーモニセンターのプログラムを広く、より多くの子供達に届けられるよう、中長期的視点を持って新拠点整備に向けた取り組みを引き続き進める。これには、キャンプが行える首都圏内の施設や都市型の居場所機能を持った施設、既存の施設に新たな機能を加えたものなど、多様な形態が考えられる。また、法人のいっそうの安定した経営のために、あわせて新たな施設運営受託の可能性を模索する。

いずれの場合も、ハーモニセンター単独での運営に限定することなく、各拠点の目的に見合う効果が発揮できるよう、それぞれの地域で当該分野の知見・経験をもつ既存団体等との連携を積極的に進め実現を図る。

## 2. ポニーキャンプ<sup>®</sup>・ポニークラブ<sup>®</sup>・動物広場・牧場等の受託管理

地方自治体等の開設した施設を受託運営し、各自治体と連携しながら、引馬や小動物とのふれあい、ポニー教室などを提供する。合わせて、大学生・専門学校生の実習・研修の受け入れも行い、青年のキャリア教育への貢献を果たす。

### 2-1 碑文谷公園こども動物広場(指定管理・指定期間5年の5年目)

所管課	目黒区都市整備部道路公園課
面積	3,310 m <sup>2</sup>
飼育動物	ポニー(6頭)・ウサギ・モルモット・イヌ・カメ
主な事業	ポニー乗馬(引馬) 小動物とのふれあい ポニー教室 個人:小中学生 団体:障害児者グループ、健常児者グループ、幼稚園・保育園・学校など 動物クラブ 各種受け入れ(ボランティア、中学生職場体験、大学生の研修など) 各種イベントの実施(エサあげ体験、クイズラリーなど) 碑文谷ポニーキャンプ(現役生向け・卒業生向け)

年間を通じて、ポニー教室や動物クラブ、小動物とのふれあい、引馬などを提供する。新型コロナウイルス感染症の影響で縮小した事業の回復や関連イベントの再開を図り、内容の充実と体験活動の機会増加を目指す。加えて、子供はもちろん、大人や高齢者、障害児者など、様々な背景をもつ方々が一人でも、家族でも参加できるようなイベントの開催、卒業生向けのボランティアグループ設立などを図り、総合的にインクルーシブな動物広場を目指していく。

また、老朽化にともなう施設の整備や障害児者の乗馬利用の環境整備などの積年の課題については、今後も自治体と協議をしながら着実に進めていきたい。

## 2-2 水元スポーツセンター公園子供動物広場(受託・1年契約)

所管課	葛飾区教育委員会地域教育課
面積	3,263 m <sup>2</sup>
飼育動物	ポニー(13頭)
主な事業	<p>ポニー乗馬(引馬)</p> <p>ポニー教室            個人:葛飾区在住・在学の小学校1年生から中学校3年生            団体:区外を含む中学生以下の団体</p> <p>障害児乗馬教室(パートナーアニマル教室)            個人:葛飾区在住・在学・在勤の小学校1年生から20歳            団体:中学生以下の団体(区外利用可能だが中学生以上の新規受付は停止)</p> <p>イベントの実施            「区民感謝乗馬デー」(年2回)「こどもまつり」「クリスマスホースショー」「マラソン大会」等</p> <p>移動乗馬教室            「葛飾区子どもまつり」(4月)「かつしかスポーツフェスティバル」(10月)</p> <p>介護予防乗馬(65歳以上を対象とした乗馬教室)年間4期(1期3回)            葛飾ポニーキャンプ</p>

教育委員会の所管施設として、ポニーを用いて心身の発達・向上を図るプログラムを展開し、地域の方々からは「ポニー公園」という愛称で親しまれている。

新型コロナウイルス感染症の影響で、2019年から続いていたポニー教室の人数制限も今年度の5月10日で解除となる見通しとなった。これにより毎日通うことができるようになるため、子供達の体力やスキルの向上、異年齢交流などが進み、ポニースクールらしさが戻ってくる事が期待される。安全に留意しながら、たくさんの挑戦のある子供達の居場所づくりを進める。

## 2-3 相模原麻溝公園ふれあい動物広場(指定管理・指定期間5年の5年目)

所管課	相模原市環境共生部公園課
面積	15,000 m <sup>2</sup>
飼育動物	ポニー(15頭)・ヤギ・ヒツジ・モルモット・ウシ・ブタ・リスザル・マーモセット・ミーアキャット シマリス・ハイラックス・シカ・プレーリードック・ウサギ・鳥類(クジャク・チャボ・オンドリ等)
主な事業	<p>ふれあいコーナー</p> <p>展示コーナー</p> <p>ポニー乗馬(引馬)</p> <p>ポニー教室(市内在住・在学の小学生から中学生)</p> <p>障害児ポニー教室(市内在住・在学の小学生から中学生)</p> <p>移動動物教室(市内施設及び団体対象)</p> <p>搾乳体験</p> <p>動物フェスティバル(年2回)等各種イベント</p> <p>さがみはらっこポニーキャンプ・ポニーボランティア合宿</p>

子供達にとって身近に動物に直接ふれ合うことのできる市民の憩いの場、家庭や学校とは違う居場所として運営している。新型コロナウイルス感染症の影響でさまざまな利用制限が続いたが、その時々状況に応じた十分な感染症対策を取り、より多くの方々に安心して楽しんでいただける環境づくりを進める。

施設の老朽化については、自治体と協力しながら着実に修繕を進め、安全な施設運営を進めたい。

## 2-4 板橋こども動物園(指定管理・指定期間5年の4年目)

所管課	板橋区土木部みどりと公園課
面積	本園 1,907 m <sup>2</sup> 高島平分園 583 m <sup>2</sup>
飼育動物	ポニー(9頭)・ヤギ・ヒツジ・モルモット・ウサギ・シカ・カメ・インコ・リス
主な事業	ヤギ・ヒツジの放し飼い、ふれあい ヤギの屋根のぼり、橋渡り モルモットのふれあい ポニー乗馬 引馬、親子乗馬、高齢者乗馬、障害者乗馬 ポニーの馬車 こども動物クラブ ポニー教室、親子ポニー教室 出張動物園、ふれあい 団体受け入れ 幼稚園・保育園・学校等の団体の受け入れ イベント開催(冬のミニイベント・ヒツジの毛刈り・公園祭り・ツリークライミング等) 板橋こどもキャンプ 施設や企業との協働企画 軽食やお土産の販売、キッチンカーの誘致 公園清掃、樹木管理

本園は2020年12月にリニューアルオープンし、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも多くの来場者を得ている。改修を経て全体として使いやすくなっているが、案内表示の改善や職員のいっそうのスキルアップを通じてより使いやすい、親しみやすい施設を目指す。

あわせて、近隣の団体や企業、学校などとの協働を図り、それぞれの特色を活かしたイベントを開催するなどし、子育て中のファミリーや不登校児、障害者、高齢者など、多様な対象への支援につながる取り組みを行う。また今年度は5年ぶりとなる公園祭りを本園で行う。実施に際しては、産官学民共同で取り組み、地域活性の機会として活用する。

## 2-5 上千葉砂原公園ふれあい動物広場(1年間の特命随契)

所管課	葛飾区都市整備部公園課
面積	2,100 m <sup>2</sup>
飼育動物	ポニー(5頭)・ヤギ・ミニブタ・ウサギ・アカリス・リスザル 鳥類(クジャク・ウコッケイ・オシドリ等)
主な事業	ポニー乗馬(引馬) 小動物とのふれあい ポニー教室(年3回/1回につき5日間) 動物クラブ 各種イベントの開催 移動動物教室(高齢者施設や盲学校など) 幼稚園・保育園・学校等の団体の受け入れ 中学生職業体験の受け入れ

地域密着型の動物広場として多くの利用者に愛されているが、ここ数年新型コロナウイルス感染症の影響で多くの事業をやむを得ず中止や縮小することになった。今年度はすでに平常業務となっている引馬事

業とともに、大小イベントの開催などに力を入れていきたい。

建物の老朽化が進んでおり、今後、建て替えの検討が進むことが予想される。計画作成の際に意見を求められても十分に対応できるよう、着実な運営を進めながら、地域ニーズの把握にも努めたい。

## 2-6 小貝川生き生きクラブ(管理運營業務委託)

取手市より管理運営受託し、小貝川ポニー牧場と一体運営を行う。

## 3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及

全国乗馬倶楽部振興協会の助成を受け、福島県南相馬市・長野県茅野市・神奈川県相模原市を中心に、巡回ポニースクールを実施予定。いくつかの対象地域では参加者の協力を得て調査を行い、ポニーが人の心身の健康・成長にどのような影響を与えるかエビデンスを得ることを計画しており、今後の教育、福祉、医療現場でのポニー乗馬の普及につなげたいと考えている。

また、自治体等と連携し、医療的ケア児や障害児、きょうだい児を対象としたプログラムの開発、実施にも努める。

## 4. 川べり環境の整備及び活用

小貝川ポニー牧場の脇を流れる小貝川の河川敷を引馬や外乗、カヤック教室、川遊びの場として、また馬の放牧場として活用する。

川べり環境の整備については、牧場開設当初より藤代まちづくり協議会と共同してフラワーカナル(河川敷の約1.1kmにわたる花壇)の整備や草刈りを行ってきたが、前年度に藤代まちづくり協議会が解散した。そこで、小貝川事業所の職員とポニー教室の参加者とその保護者が協同でポピー・コスモスの種蒔きや河川増水後のゴミ拾いの実施を実施。今年度も継続して実施していく。

主な事業	引馬・外乗 カヤック教室・水遊び ゴミ拾い・草刈り・水辺の体験教室 フラワーカナル種蒔き
------	---

## 5. 国際文化交流、国際相互交流活動の推進

新型コロナウイルス感染症の影響で休止していた「モンゴル大草原乗馬交流」について、株式会社風の旅行社との共同事業として、8月にツアーを実施する。このツアーをきっかけに、今後、交流活動の再開を目指す。

「日独青少年相互交流計画」については、環境が整わず直接交流については休止状態が続くが、交流が途切れぬよう、過去参加者を中心にオンライン・イベント、ドイツ国際平和村関連イベントを継続実施する。

あわせて、直接交流の再開を見据えて、モンゴル、ドイツに限らず、さまざまな国際交流プログラム実施の可能性を探り、調査を進める。

## 6. 社会教育に関する調査研究の推進及び研究成果の普及

全国乗馬倶楽部振興協会、JRA日本中央競馬会、ゆるやかネットワーク、その他のグループが乗馬の効用、馬の活用状況に関連して実施する研究集会、調査、交流会などに積極的に参加・協力し、ハーモニィセンターが蓄積してきたノウハウ、成果等を積極的に発信すると共に、参加職員の資格取得、研修、情報収集にも努める。また、これらのネットワーク、そしてカウンセラーOB/OGらのネットワークを活かし、在来馬の保存・活用に関連するプログラムの展開も継続して進める。

また、ハーモニィセンターの活動への理解を得て、広げていくためには、活動の効果、意義を測定、言語化し、伝えていくことが不可欠である。助成金の活用、大学等の研究機関やさまざまな課題に直面する子供達の支援を行う団体等との協働で、調査研究を積極的に行う。

## 7. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信

キャンプをはじめとするハーモニィセンターの活動を広く知ってもらうために、機関紙、WEB サイト、ブログ、SNS 等を活用して、情報発信を行う。

あわせて、運営基盤の強化につながる広報のあり方を検討し、積極的に変革を進めたい。

### 7-1 機関紙「THE HARMONY CENTER」

会員、関係者、公的機関を対象に、月刊で 2,000 部を発行。

各現場でのエピソードを含むハーモニィセンターのさまざまな情報を発信すると共に、有識者からの寄稿も積極的に求め、より興味を持ってもらえるような紙面作りに努める。

### 7-2 WEB サイト・SNS の運用

キャンプなどの最新の情報を伝えるとともに、定款や決算など開示情報を掲載する場としてWEBサイト (<https://harmonycenter.or.jp/>) を運用。あわせて、より手軽に情報を発信し、情報交流を図るツールとして、ブログ、SNS (Facebook/Instagram) を運用する。

SNSについては常に新しいツールが提供されているため、対象や提供する情報により合致する新しいものも積極的に活用する。

### 7-3 パンフレット・チラシの活用

各事業所やイベント会場など、紙媒体が有効な場面は依然として多くある。必要に応じて内容をブラッシュアップし、有効活用を進める。

## 8. 各種セミナー等

長年の活動を経て、キャンプ参加者やカウンセラーが子育てをするようになったり、仕事やボランティア活動等でさまざまな社会課題に対応するようになっている。こうした人達が再びハーモニィセンターの活動に接する機会となるようなイベント等を実施する。過去2年に開催し、好評を得たりんごの木子どもクラブ代表の柴田愛子さんの子育て講演会を今年度も開催する。

あわせて、キャンプやポニー教室に参加する子供達がより深く馬や動物に関わる仕事について学べるプログラムや、活動の質を高めることに資する講演会などをオンライン、対面を交えて機動的に実施する。

## 9. 法人運営にかかる業務

### 9-1 職員等の研修

よりよい事業展開が行えるよう、担当業務、経験年数等に応じたさまざまな研修を年間を通じて実施する。前年度から開始した法人独自の乗馬指導技術検定制度の運用をいっそう進め、職員が体系的にスキルアップできることを目指す。

また、国外を含めた外部のセミナー、研究大会等に積極的に職員を派遣するとともに、業務に関連する資格等の取得を推奨する。

### 9-2 会議等の実施

法人運営に必要な諸会議を適宜実施する。

- (1) 評議員会 2023年6月
- (2) 理事会 2023年5月・2023年6月・2024年3月(必要に応じて臨時理事会を実施)
- (3) 運営会議 年15回程度
- (4) 施設長会議 年12回程度

### 9-3 運営体制強化に向けた取り組み

将来にわたって良質な体験を提供し続けるだけでなく、さまざまな社会課題に対応した事業が展開できるよう、ファンドレイズや助成金の活用、中間支援組織や企業等とのパートナーシップ構築、新たな施設運営受託に向けた調査など、中長期的視点に立った運営体制強化の取り組みを行う。

取り組みにあたっては、中期計画を策定し法人としてのビジョンを明確に示すことで、ステークホルダーとの相互理解に基づく良好な関係づくりを目指す。

### 9-4 他団体との連携等

関連団体への役員・委員・指導者等の職員派遣や、運営協力を積極的に行い、馬の利活用や青少年教育の向上に貢献する。

役員等派遣	公益社団法人全国乗馬倶楽部振興協会・NPO法人自然体験活動推進協議会 NPO法人日本Gボール協会・一般財団法人日本ユースホステル協会 一般財団法人陽だまりハーモニー・ゆるやかネットワーク・体験の風をおこそう運動 中央青少年団体連絡協議会
運営協力 講師派遣等	「馬のいる領域」研究集会・公益社団法人日本キャンプ協会・土曜学習応援団 大都市圏動物園事務主管者会議・NPO 法人川に学ぶ体験活動協議会 河川流域交流会・馬を用いたセラピー療育研究プロジェクト 一般財団法人日本ユースホステル協会(馬の楽校)・早寝早起き朝ごはん全国協議会 東京都こどもスマイルムーブメント・認定 NPO 法人児童虐待防止全国ネットワーク 大学・専門学校(専門学校ビジョナリーアーツ等) ※ このほかに、依頼に応じて馬の調教や乗馬指導に関する指導者を派遣

## 9-5 日常法人事務

円滑な法人運営のため、以下の事務を滞りなく行う。アウトソーシングや新たなシステムの導入も積極的に進め、各事業所の負担を低減するとともに、効率的な運営を目指す。

- (1) 事業執行管理
- (2) 経営管理
- (3) 人事労務管理・職員研修
- (4) 会員管理
- (5) 寄付金・助成金事務
- (6) 渉外事務
- (7) 庶務